

岡山県感染症週報 2022年第14週 (4月4日～4月10日)

◆2022年 第14週 (4/4～4/10) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第12週	2類感染症	結核	1名 (80代 女)
第13週	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O8:50代 男)
	5類感染症	梅毒	1名 (50代 男)
第14週	2類感染症	結核	1名 (40代 女)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O血清群不明:30代 男)
	4類感染症	マラリア	1名 (20代 女)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名 (50代 男)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1名 (60代 女)
		梅毒	1名 (30代 男)

新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 3,926名

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
659	717	668	634	583	324	153	105	54	29

ソーシャルディスタンス
・マスク・手洗い・換気!



©岡山県「ももっちと仲間たち」

【第15週 速報】

○新型コロナウイルス感染症 1,974名の発生がありました (4月11日～13日)。

ワクチン接種も
大切!



©岡山県「ももっち」

1. **新型コロナウイルス感染症**は、2022年第14週に3,926名の報告があり (第13週は3,241名)、県内での2020年からの累計報告数は68,229名となっています。詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡		細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ➡：減少 ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

【発熱や風邪のときは「かかりつけ医」等にご相談を！】

新型コロナウイルス感染症は、発熱や咳などで始まることが多く、一般的な風邪や、インフルエンザと初期症状が似ています。

こうした症状がある場合は、無理をして学校や職場等に行かないようにして、「発熱外来」で相談・診療・検査をしてもらいましょう。

なお、医療機関を受診する際は、必ず事前に電話予約をし、受診時はマスクを着用してください。

詳細は、岡山県ホームページ → [新型コロナウイルス感染症に関するコールセンター](#)

今週の注目感染症

★新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空气中に留まりうることから、換気不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。予防接種が進められており、4月12日までで全人口の79.7%が2回、46.4%が3回のワクチン接種を完了しています。

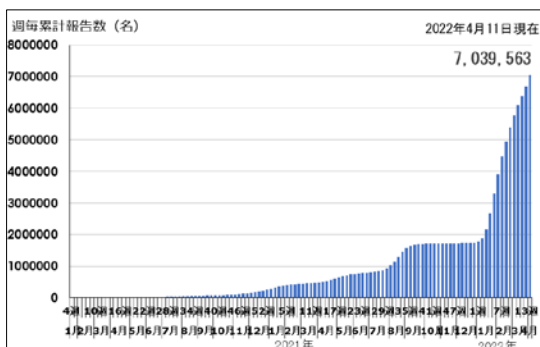
●症状

現在日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と、従来流行していた株（デルタ株など）と比較し短くなっています。また、上気道で増殖しやすい特性から、従来株に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（22週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産婦人科学会、2022年3月1日付報告）](#)）。なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、こちらをご覧ください。→ [罹患後症状のマネジメント・暫定版（2021年12月1日発行）](#)

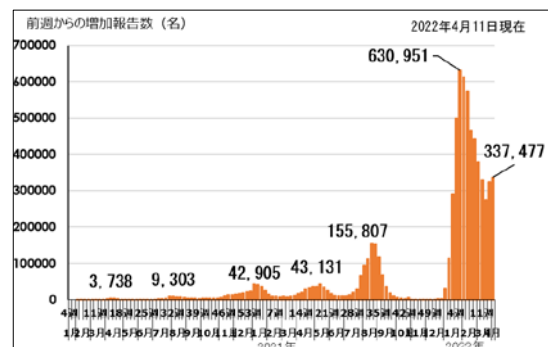
●発生状況

・全国

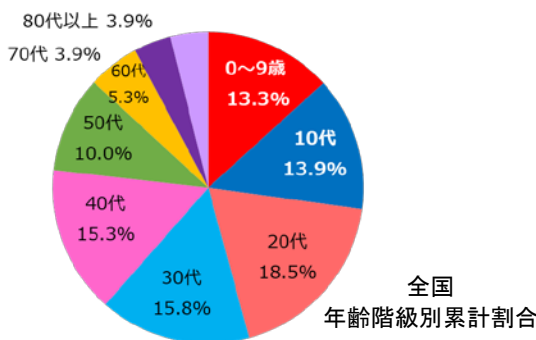
2022年4月13日0時現在まで、国内感染者は累計で7,124,030名、国内死亡者は28,765名、入院治療等を要する者は487,339名（うち重症者468名）となっています（厚生労働省ホームページより）。全国の新規感染者数は増加傾向が継続し、一部の地方都市では急速に感染が拡大しています。新規感染者数の増加に伴い療養者数の増加傾向は継続し、重症者数は下げ止まり傾向となっています。死亡者数は減少傾向ですが、今後増加に転ずる可能性があります。全国的にオミクロン株BA.2系統（BA.1系統と比較し、感染性が高いとされている）への置き換わりが進んでおり、5月第1週時点でBA.2の検出割合は9割程度になると予測されています。さらに、検疫で3月26日に採取された検体からXE系統（BA.2系統と比較した感染性は明らかではないが、高いという報告もある）が確認され、今後の感染状況が注視されます。年度替わりの接触機会の増加や今後大型連休が近づく中で人流の活発化が見込まれることから、更なる感染防止策の徹底に留意が必要です。



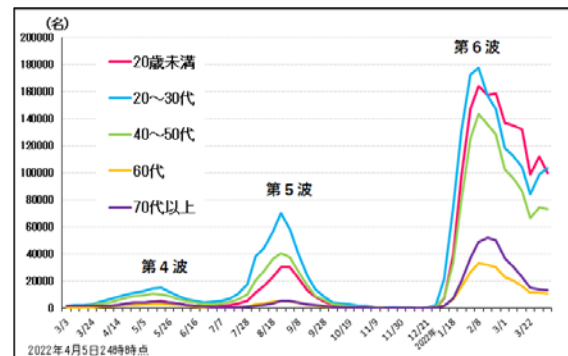
全国 週毎累計感染報告数 厚労省 HP より
(2022年第14週まで(～2022/4/10))



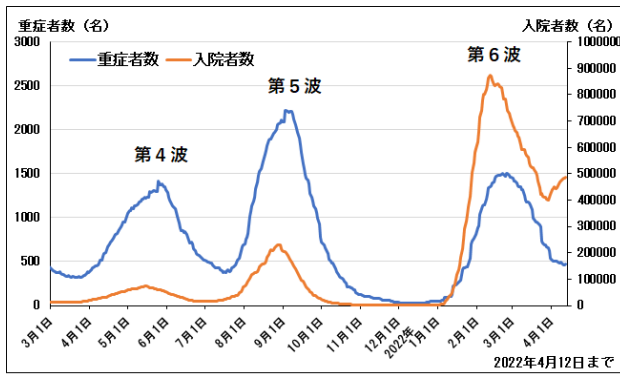
全国 週毎増加感染報告数 厚労省 HP より
(2022年第14週まで(～2022/4/10))



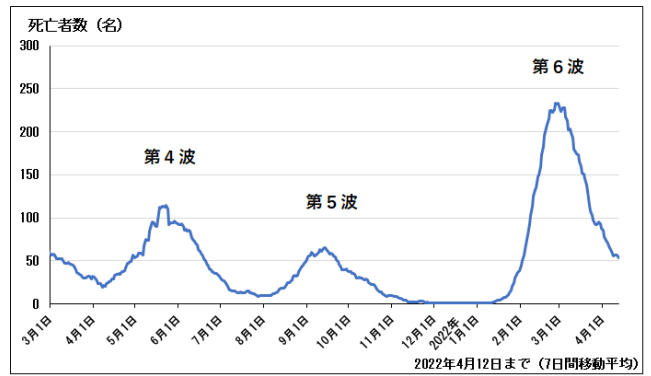
厚労省 HP より(2022年4月5日24時時点)



全国 年齢階級別発生状況(2022年4月5日24時時点)



全国 重症者数・入院者数の推移
(厚生労働省オープンデータより(2022年4月12日まで))



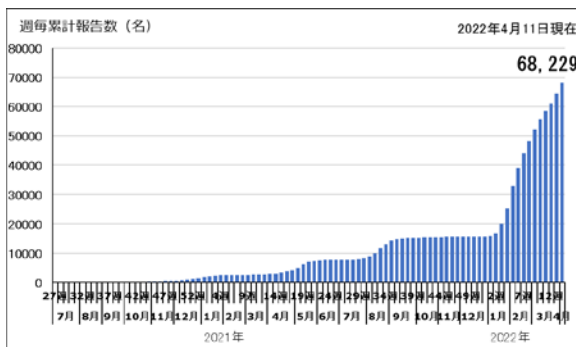
全国 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年4月12日まで))

・岡山県(最新情報)

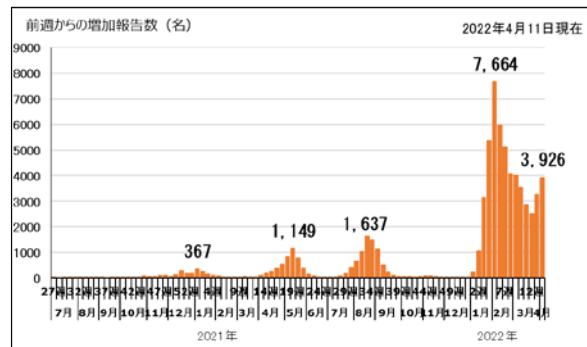
2022年4月14日0時現在まで、岡山県の感染者は累計で70,203名、死亡者は226名(4月7日~4月13日までの1週間で3名増加)となっています。高齢者施設・学校・保育施設などでクラスターが発生しています。直近1週間の新規感染者数は、先週の約1.3倍となっており、全ての年齢層で増加しています。特に70代以上の新規感染者数は、先週の約2倍となっています。また、BA.2系統の感染も県内で確認されています。今一度、基本的な感染予防策(3密(密閉・密集・密接)の回避、マスクの正しい着用、手洗い、換気など)の徹底に留意し、体調が悪いときは速やかに医療機関を受診しましょう。

2022年 第15週 速報 1,974名 年齢階級別発生状況一覧表

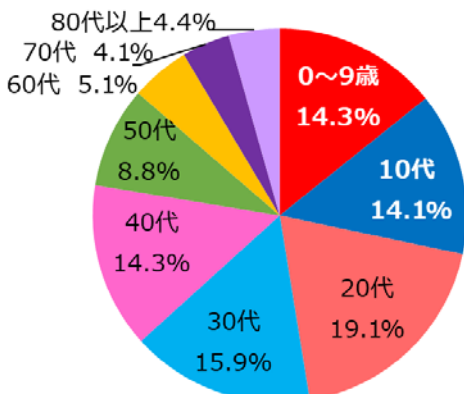
0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
334	350	338	292	287	146	70	62	65	30



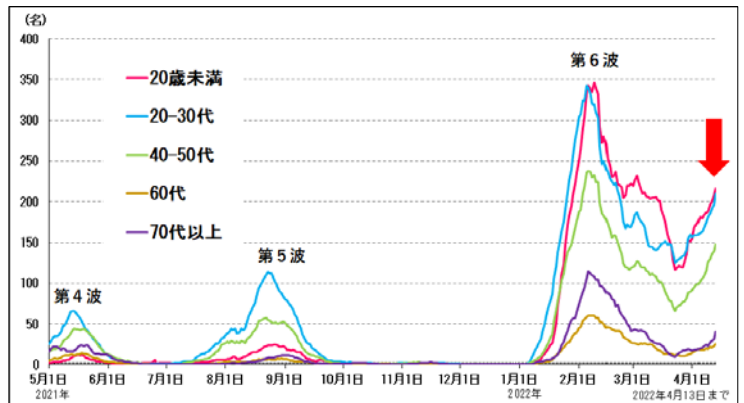
岡山県 週毎累計感染報告数 (第14週まで)



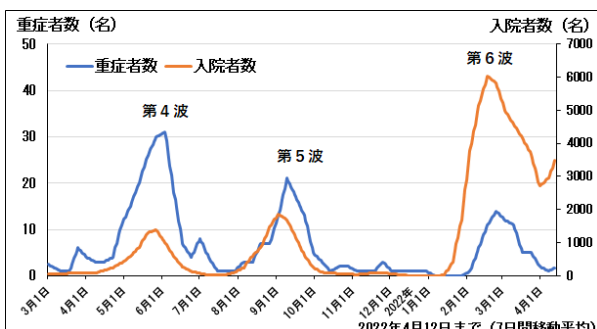
岡山県 週毎増加感染報告数 (第14週まで)



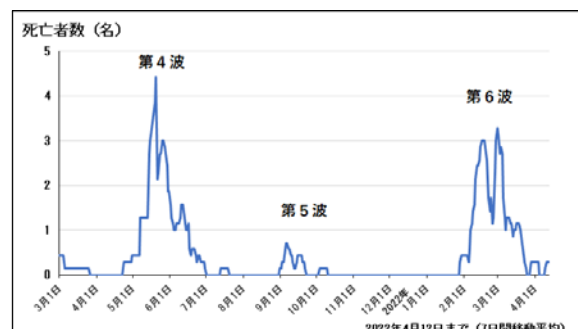
岡山県 年齢階級別累計割合(4月13日まで)



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、4月13日まで)



岡山県 重症者数・入院者数の推移(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年4月12日まで))



岡山県 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年4月12日まで))

＊子どもの予防接種を確実に！＊



新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

厚生労働省リーフレットより

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#)（岡山県健康推進課）

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

**3年間延長
されます！**

岡山県の2019年4月～2022年1月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、**27.8%(12月までは27.5%)**と未だに低い状況です！

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

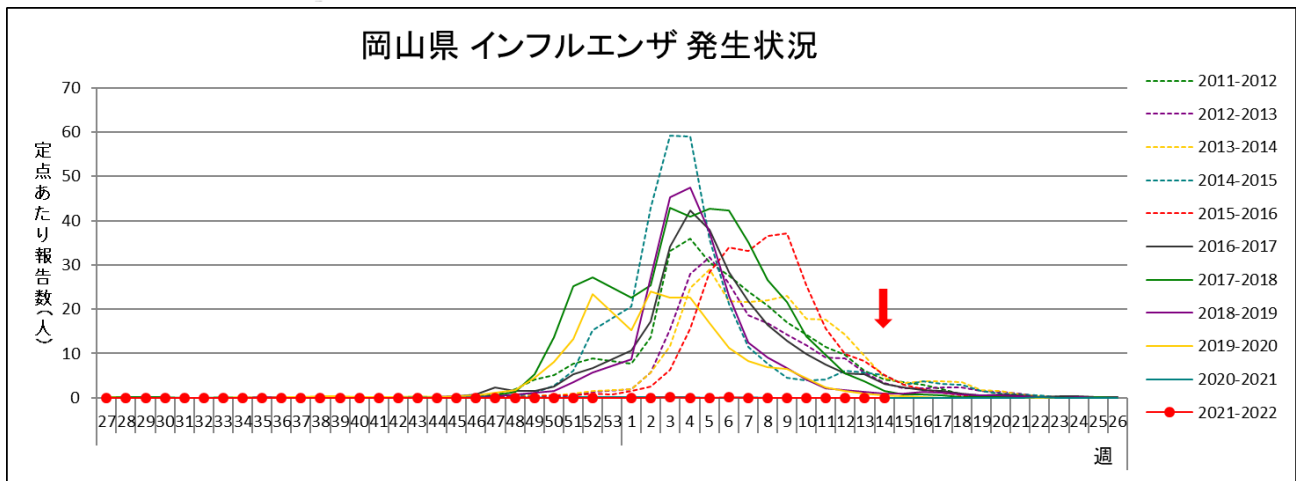
[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

岡山県 インフルエンザ発生状況

(2021/22 年シーズンのまとめ)



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

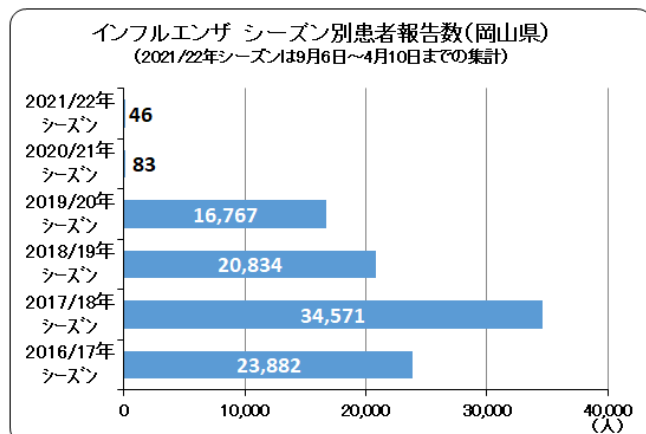
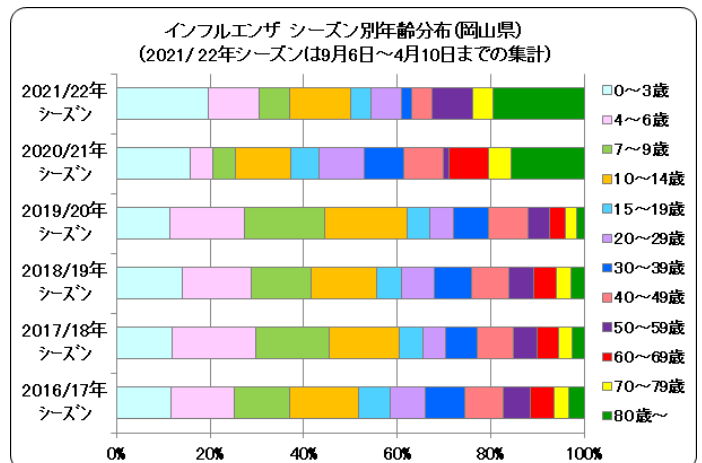
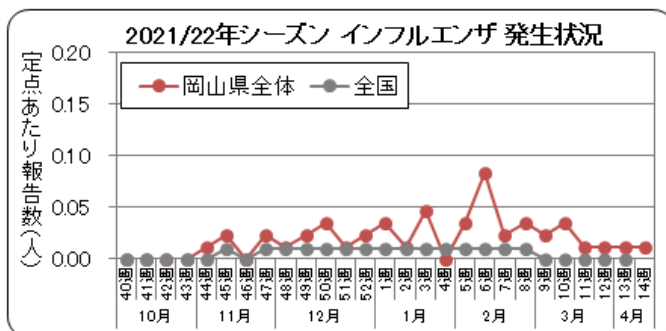
2021/22 年シーズン(2021/9/6~2022/9/4)のうち、2022 年 4 月 10 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました(県内 84 定点医療機関報告)。

1. 患者報告数、年齢別発生状況

今シーズン、岡山県の患者報告数は、46 人であり、昨シーズン(2020/21 年シーズン)に引き続き、少数の報告でした。感染症発生動向調査開始以降のシーズン(2000/01 年シーズン以降)で最も少ない報告数でした。2021 年第 44 週(11/1~11/7)に初めての患者が報告されてから、散発的に患者が発生し、最も患者報告数が多かったのは、2022 年第 6 週(2/7~2/13)の 7 人(定点あたり 0.08 人)でした。昨シーズンと同様に今シーズンも、注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上回ることがなく、注意報は発令されませんでした。地域別では、備中地域の 25 人が最も多く、次いで美作地域(18 人)、岡山市(2 人)、備前地域(1 人)であり、倉敷市、備北地域及び真庭地域は 0 人でした。

全国では、2021 年第 51 週(12/20~12/26)に今シーズンの最多の報告数(49 人(定点あたり 0.01 人))となりました。

岡山県の年齢階級別は、0~3 歳及び 80 歳以上(19.6%)、10~14 歳(13.0%)、4~6 歳(10.9%)の順でした。



※インフルエンザシーズンは、第 36 週から翌年第 35 週までを 1 シーズンとして集計しています。

2. インフルエンザウイルス検出状況

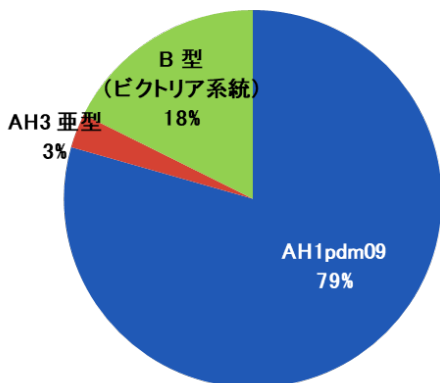
今シーズンのうち、2022年4月10日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。また、全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、3株(AH3亜型2株、AH1pdm09 1株)でした。

[インフルエンザウイルス分離検出状況（国立感染症研究所）](#)

<参考として2019/20年シーズン等のデータをお示しします>

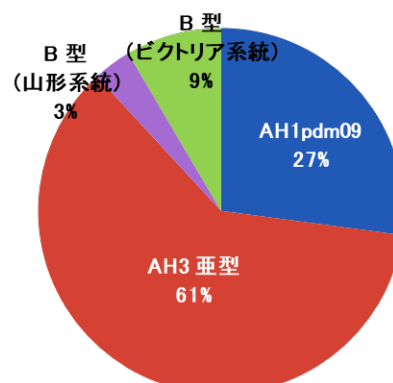
岡山県はAH1pdm09が主流でした。全国はAH1pdm09が主流となり、2月中旬以降はB型(ビクトリア系統)が主流となりました(2021年4月12日までの検出状況)。

【岡山県】 【2019/20年シーズン】



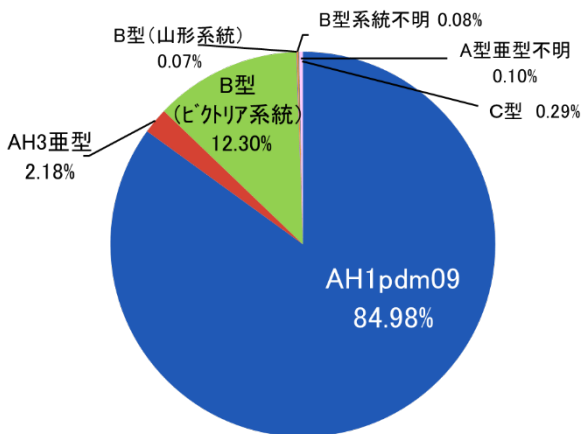
2019/20年シーズン
岡山県インフルエンザウイルス検出状況
(n=34)

【2018/19年シーズン】



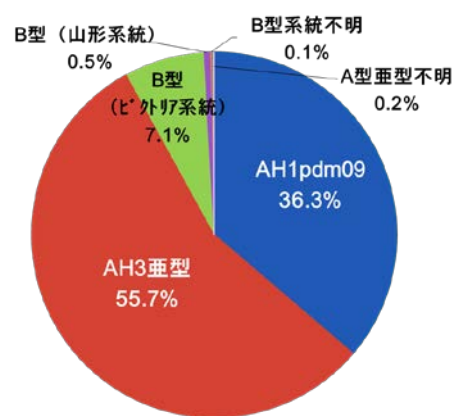
2018/19年シーズン
岡山県インフルエンザウイルス検出状況
(n=59)

【全国】 【2019/20年シーズン】

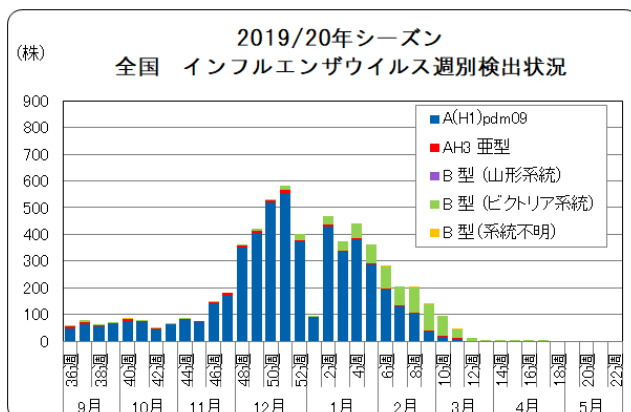


2019/20年シーズン
全国インフルエンザウイルス検出状況 (n=6,107)

【2018/19年シーズン】



2018/19年シーズン
全国インフルエンザウイルス検出状況
(n=7,285)



3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズンのうち、2022年4月10日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業はありませんでした。全国では、2022年3月18日現在(今シーズンの最終報告)で、学級閉鎖1例が報告されました。

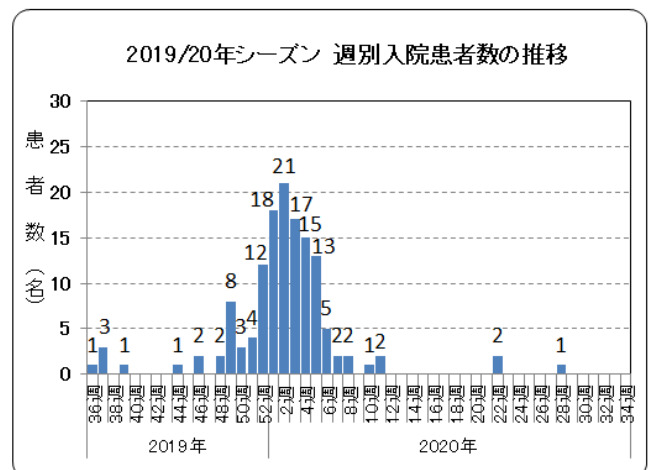
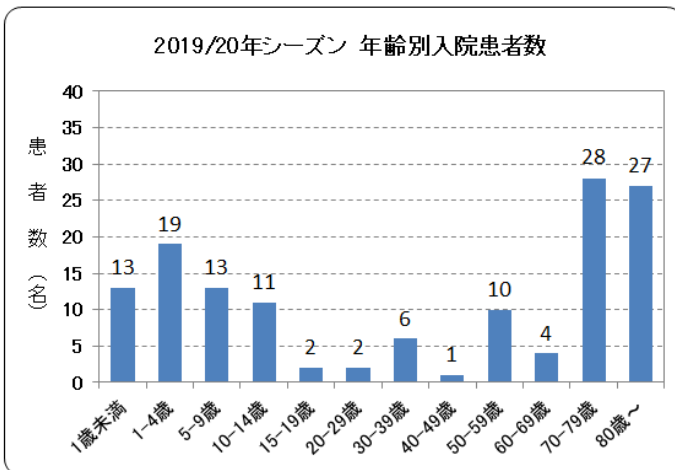
4. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点5医療機関による報告)

今シーズンのうち、2022年4月10日までのインフルエンザによる入院患者数は0名であり、昨シーズン(2名)から減少しました(2019/20年シーズンは136名)。全国では、2022年3月18日現在で、35名の入院患者が報告されました(2018/19年シーズン:20,185名、2019/20年シーズン:12,982名、2020/21年シーズン:118名)。

また、今シーズンのインフルエンザ脳症(第5類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるもの)の報告は、昨シーズンと同様に、岡山県ではありませんでした(2018/19年シーズン:3名、2019/20年シーズン:5名)。全国では、インフルエンザ脳症の報告は1例(インフルエンザB型)の報告がありました(2018/19年シーズン:231名、2019/20年シーズン:251名、2020/21年シーズン:0名)。

<参考として2019/20年シーズンのデータをお示しします>

【岡山県】



保健所別報告患者数 2022年 14週(定点把握)

(2022/04/04~2022/04/10)

2022年4月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
咽頭結膜熱	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.24	3	0.21	4	0.36	2	0.20	4	0.57	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	175	3.24	47	3.36	38	3.45	26	2.60	33	4.71	7	1.75	3	1.50	21	3.50
水痘	6	0.11	2	0.14	2	0.18	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	12	0.22	5	0.36	3	0.27	-	-	3	0.43	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	3	0.06	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2022年 14週(発生レベル設定疾患)

(2022/04/04~2022/04/10)

2022年4月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.24	3	0.21	4	0.36	2	0.20	4	0.57	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	175	3.24	47	3.36	38	3.45	26	2.60	33	4.71	7	1.75	3	1.50	21	3.50
水痘	6	0.11	2	0.14	2	0.18	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	3	0.06	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2022年 第14週 2022/04/04~2022/04/10)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	-	-	1	1	1	3	3	1	2	-	1	-	-	
感染性胃腸炎	175	1	12	30	27	28	18	10	4	2	8	3	13	2	17
水痘	6	-	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-
手足口病	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	12	-	4	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2022 年 14 週

分類	疾病名	2022			疾病名	2022			疾病名	2022		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	54	247	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	6	82
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	4
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	1	1	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	4	57
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	1	3	14	ウイルス性肝炎	-	-	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	2
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	1	急性脳炎	-	1	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	4	後天性免疫不全症候群	-	-	13
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	6	17	水痘(入院例に限る。)	-	1	9	先天性風しん症候群	-	-	1
梅毒		1	38	160	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	-	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	-	3	15
風しん		-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※	新型コロナウイルス感染症	3,926	52,669	14,120		-	-	-		-	-	-

※ 新型インフルエンザ等感染症

